

Libra I on 12

<http://www.libra-sc.jp>

vol.

りぶらいおん

特集：来館者 300 万人達成 対象者インタビュー



イベント盛りだくさんの11・12月。
行ってみようかなあ…がきっとある！



図書館交流プラザ（愛称:Libra）は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ（LSC）は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。





平成 22 年 9 月 5 日 来館者 300 万人達成 おめでとうインタビュー

岡崎市図書館交流プラザ Libra(りぶら)の入館者数が9月5日午前10時30分、300万人に達し、柴田市長、江村教育長らの参加のもと記念セレモニーが行われました。

節目の300万人目となったのは北野町にお住まいの岡田正義さん、創慈くん、耕毅くんの親子。前後該当者は、久後崎町の塩田三姉妹、矢作町の今井さんでした。りぶらサポータークラブからも山田美代子代表が記念品を贈りました。セレモニーの後、インタビューをさせていただきました。

岡田正義さん、創慈くん、耕毅くん

300万人目に該当した岡田正義(まさよし)さんは、予約した本を借りるために来館したということで、感想を聞くと、「まさか自分がとびつきました」と。

今日は小学3年生の創慈(いつじ)くんと年長の耕毅(こうき)くんも一緒に、月に3~4回は一緒に図書館に通っているそうです。ご自身は、会社帰りに一人で寄ることもあるそうで、「子どもと一緒に来るようになったのはりぶらができてからですが、私自身は前の図書館にもよく通っていました。夜9時まで開いているのはとてもありがたいですね」とおっしゃっていました。

主に電気関係の専門雑誌を毎月読んでいて、仕事の関係で1階の専門書もよく利用しているということでした。専門書もそれなりに充実していて、大変満足しているそうです。今後もこのレベルを維持して欲しいなあというのが、今後の図書館に期待するところ。二人のお子さんも、「楽しい本がたくさんある!」と、声をそろえて言ってくれました。

塩田三姉妹

笑顔が印象的な三人組は、塩田柚(ゆず)さん、まりもさん、ほたるさんの三姉妹。とっても仲の良さそうな雰囲気、LSCのメンバーは友達かな……と思っていたので、姉妹と聞いてちょっととびつきました。「仲がいいんですね」と声を掛けると「そんなことありませんよ。すっごいケンカもするんですよ」と、これまた仲良く

創慈くんは、この夏休み、宿題の調べ学習をするのに図書館がとても役に立ったそうです。耕毅くんが今はまっているのは「びよこたん」のシリーズ(※)。でも、なかなか借りられなくて、今はちょっと本から遠ざかっているとのことでした。

ちなみに「読書マラソン」をご存じですかと何うと、知っているけどやってないというお返事。でも、同僚にはすすめてくださったということでした。

岡田さんご一家は、100%図書館の利用者で、情報コーナーや活動コーナーには初めて来たとのこと。ここには本以外の情報もたくさんありますよ、とアピールしてインタビューを終えました。

※「びよこたん」のシリーズは、年中さんから小学校の低学年までに人気の知識絵本。なぜなぞやめいろやまちがいさがしのシリーズ本です。「ちしきのえほん24」の棚にはほとんど本がなく、カウンターの職員に尋ねると、夏休みに限らず、年中人気があるそうです。私も、ちょっとし調べ学習をしてみました。(e3)

答えてくれました。

そんな三人は、いつもりぶらに歩いてやってくるそうです。時間にして30分。なかなかの距離だと思んですが、3人でおしゃべりしながら歩いて来れば、ちっとも気にならない様子。記念すべき300万人目に選ばれた感想は?と尋ねると、少し口ごもった後で「最初はとま



どった」「びっくりした」「うれしいけど、ちょっとはずかしい」と、それぞれに答えてくれました。特にお姉さんの柚さんは、自分が通り過ぎた後に、まりもさんとほたるさんがスタッフに声を掛けられて、そこに呼び戻されたのでことさらびっくりしたようです。

りぶらによく来るようになったのは、今年の夏休みに入ってから。特にお盆の間はほとんど毎日、来ていたそうです。お家で作ったお弁当を持ってきて、朝から夕方までりぶらで過ごします。長期滞在型のヘヴィーユーザーというところでしょうか。体力と気力があれば、夜までいることもあるそうです。

利用の目的は、主に勉強。そして読書です。最近ほたるさんオススメの『刀語り』（西尾維新 著：YA）に、姉妹ではまっているとか。面白くて読みやすいそうですから、気になる人はティーンズの棚をのぞいてみてください。お気に入り

今井邦彦さん

300万人目にあたり「大変光栄です！」とおっしゃるのは、車椅子で穏やかな笑顔を湛えた男性、今井邦彦（くにひこ）さん。本日の来館目的は、午前中は3階会議室で「日本語サロン」に参加、午後もりぶら内にて「中国語サロン」に参加することだそうです。

週に最低3日はりぶらに足を運びとおっしゃる今井さんの主な活動場所は、各階の会議室と2階の活動コーナー。日曜の午前は外国の方々に日本語を教える「日本語サロン」、午後は「中国語サロン」、月曜は日本の文化を紹介する「英語サロン」等、語学を活かし国際交流の場として利用されているようです。さらに金曜は丸1日、趣味の活動（内容は秘密だそうです）のため、2階の活動コーナーを主に利用されているとか。「ここ（りぶら）が無いと生きていけないよ」と、笑顔でおっしゃっていたのが印象的です。

これらの活動はいずれも早期退職後に始め、りぶらができる以前は市内の他の場所を利用していただいていたそうです。しかし、今では活動拠点をすべてりぶらに移してしまったりとか。その最大の理由は2つ。

1つ目は、館内にエレベーターが設置されているという点。車椅子でも楽に行動ができ大変便利とのこと。2つ目は、駐車場に屋根があるという点。雨の

スペースは、静かな閲覧室。混んでいるときはグループ室の奥にある隅っこのスペースも利用するそうです。

少し脱線して、とても印象なお名前についても伺ってみました。三人の名前をつけたのは、お母さん。柚さんは、生まれたときに庭にあった柚の木にちなんで。まりもさんは、お母さんが出身地である北海道の阿寒湖のマリモが好きだったから。ほたるさんは、生まれたときに家の前の田んぼに、たくさん螢が飛んでいたから。お母さん……素敵すぎます！

さて、仲の良い三姉妹は、りぶらではずっと一緒にいるかといえば、そうでもなく、それぞれに勉強をしたり本を読んだり、思い思いに過ごすそうです。りぶらに来れば友達もいるので、ときには友達と過ごした後に、姉妹とは別に友達と帰ることもあるとか。なんとも自由でのびのびした使い方ですね。（k2）

日はこの屋根が欠かせないのだそうです。以前利用していた施設では、屋外駐車場しかなく建物に入るまでに濡れてしまい、雨降りというだけの理由で、その日の活動をキャンセルせざるを得なかったそうです。しかし、りぶらを利用するようになってからは、天気に左右されることなく自由に行動できます、と嬉しそうに語ってくれました。

また、愛妻家という今井さんは、奥様が図書館を利用する際は運転手として来館されるとか。最近は小学生のお孫さんが、りぶら内で行われる囲碁こども教室に通い始めたとのことで、ご家族がそれぞれの目的で利用されていました。

最後に、りぶらを使いこなしているらしい今井さんに、りぶらに対する要望をお聞きしてみました。現在、りぶらには身障者用駐車場が6台あるものの、空いていないことが多くお困りだとか。これは単に6台を8台に増やせば良いという単純なことではなく、健常者が停めているために停められないという、何とも残念な事実でした。

このインタビューには、終始素敵な笑顔で対応していただきました。すべての利用者が、この節目を機に、今後も笑顔で楽しくりぶらに集えるよう、マナー向上を願わずにはられません。（meihe）





りぶら中央図書館情報

ご存知ですか？ 図書館サービスがあります 「返却ポストの利用」

図書館の本を返したくても、お仕事が忙しくて開館中に図書館に行けなかったり、返しに行ったら休館日だった、という場合もあるでしょう。そのときは、りぶらや額田図書館及びシビックセンターにある返却ポストをご利用ください。施設が閉まっている日・時間帯のみ、返却することができます。本が傷まないよう、1冊ずつ投函してください。(CDやDVDなどの視聴覚資料は、破損の危険があるため、返却ポストでは受けられません。必ず開館中にカウンターにお返しください)



りぶらの返却ポストは、建物東側の壁(バス停の近く)にあります。ここに本を投函すると...



ベルトコンベアが自動的に作動し、屋内駐車場を通過して、施設内へと運ばれていきます。



図書館内のバックヤードに到着。ここで返却処理した後、予約本・他館行きなどに仕分けられます。

レファレンス事例集7

岡崎市立中央図書館でこれまでに受けた資料相談事例を紹介します。
「へえ～、図書館でそんなことがわかるの！」と感動(?) できるネタ満載ですよ。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controller> より

質問	日名町にあった日本レイヨン工場(現ユニチカ)が軍需工場としてプロペラを作っていた時の資料が見たい。
回答	『新編岡崎市史 総集編』 ⇒軍需工場の項目に「木製プロペラを製作」との記載があります。 『戦時下・愛知の諸記録』 ⇒P39に、どの学区の子どもが工場へ働きに行っていたのかについての記述があります。 『ユニチカ百年史 上』 ⇒軍需工場へ転換した経緯、木製プロペラの材料の製造方法についての記述や、プロペラのサンプル写真があります。
参考資料	『新編岡崎市史 総集編』(A0233シ) 『戦時下・愛知の諸記録』(A392セ) 『ユニチカ百年史 上』(A0586ユ)

りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館2階の視聴覚ブースでは、ビデオやDVDなどの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブス化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。

懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも?!

紹介映像7

「おかざき路上探検」
全8回：岡崎市制作
放送年：平成13年
(2001年)



民俗学研究者の嶋村博さんが案内役となつて、矢作・八帖・板屋・田町・材木・連尺・伝馬・両町・若宮・JR岡崎駅周辺・東蔵前・岩津の各地に残るむかしの街の名残を、そこに暮らす人々のお話を聞きながら探検する、岡崎市制作の8回シリーズの番組です。

平成13年制作と、比較的新しいのですが、りぶらより少し北、伊賀川に直接面していた数多く家屋のように、今はもうなくなってしまった風景も紹介されています。

撮影当時には、なくなってしまうなんてもちろん想像もしていなかったのでしょうか。何気なく撮った映像も、時間を経ると、たいへん貴重な資料になるという、よい例ですね。



りぶら中央図書館 2階テーマ展示コーナー

11月16日(火)～12月28日(火)

できごと2010

～本とともに振り返る～

今年あなたはどんな一年でしたか。「光陰矢の如し」の格言がありますが、年々、一年が早く過ぎ去っていくような感覚を覚えます。

図書館では、この一年を振り返り、日本や海外で起こった印象に残る出来事を時系列にしてパネルで紹介します。

「円高」や「尖閣諸島問題」などの厳しいニュースが多いなか、「はやぶさの帰還」や「日本人ノーベル科学賞受賞」などの嬉しいニュースもありました。図書館ではこれらのニュースをまとめて「できごと2010～本とともに振り返る～」として、出来事に関連する本を集めてテーマ展示を行います。

1	冤罪 ある日、私は犯人にされた	菅家 利和 / 著	朝日新聞出版
2	時効廃止論「未解決」事件の被害者家族たち	毎日新聞社会部 / 著	毎日新聞社
3	子どもの脳死・移植	杉本 健郎 / 著	クリエイツかもがわ
4	探査機はやぶさ7年の全軌跡 世界初の快挙		ニュートンプレス
5	総理大臣の器「菅」対「小泉」マニフェスト	菅 直人 / 著	幻冬舎
6	「中国問題」の核心	清水 美和 / 著	筑摩書房
7	図解島国ニッポンの領土問題 激怒する隣国	中沢 孝之 / 著	東洋経済新報社
8	狂牛病と口蹄疫	吉岡 裕 / 編集監訳	農林統計協会
9	新少子高齢社会の基礎知識 図表でわかる	エイジング総合 研究センター	中央法規出版
10	人生の最後をどう終えるか	安田 千恵子 / 著	講談社出版サービスセンター
11	NARASIA 東アジア共同体?	日本と東アジアの 未来を考える委員会	丸善
12	遷都 1300年奈良の旅		JTB パブリッシング
13	小さいおうち	中島 京子 / 著	文芸春秋
14	ライ麦畑でつかまえて	J.D. サリンジャー / 著	白水社
15	ふふふふ	井上 ひさし / 著	講談社
16	蒲田行進曲	つか こうへい / 著	角川書店
17	心残りは…	池部 良 / 著	文芸春秋
18	SAMURAI 2010 ワールドカップ南アフリカ大会	原 悦生 / 写真	イースト・プレス
19	イチロー式逆境力	児玉 光雄 / 著	ぶんか社
20	石川 遼に学ぶメンタルゴルフ革命	児玉 光雄 / 著	ベースボール・マガジン社



11・12月 りぶらイベントガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名	料金	主催
11月1日(月) 15:00～	これからどうなる日本経済	無料	(社)岡崎法人会事務局 53-2141
11月3日(水) 15:00～	～日野皓正カルテットコンサート	5,000円	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
11月5日(金) 14:00～16:00	LICCの講座 アメリカあれこれ【全4回】 -American Kaleidoscope-	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月7日(日) 14:00～16:00	LICCの講座 ワールドレクチャー 韓国	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
11月8日(月) 10:00～12:00	勇気づけで子どもを伸ばす子育て法を学ぼう! 【全9回】	お問合せ 下さい	勇気づけの子育て陽だまりの会 080-5137-9192 斎藤
11月12日(金) 13:30～	無料体験会 ゴスペル	無料	ワンボイス事務局 090-8132-0120
11月13日(土) 14:00～16:00	英語で語る「葛飾北斎の世界」	無料	英語サロン 今井 090-4191-3145
11月13日(土) 10:00～20:00	りぶらまつり 2010 「りぶら de つながりんぐ」	無料	りぶらまつり実行委員会 23-2888
11月14日(日) 10:00～18:00	りぶらまつり 2010 「りぶら de つながりんぐ」	無料	りぶらまつり実行委員会 23-2888
11月19日(金) 19:00～	幻の銀巴里セッションを語る	無料	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
11月20日(土) 13:30～15:30	Libra あかりワークショップ みんなでつくろう!プレゼントマン	無料	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
11月21日(日) 11:00～13:00	LICCの講座 日本料理	500円	りぶら国際交流センター 23-3148
11月22日(月) ① 9:30 ② 11:00	おやこリトミック	500円	育遊空感べる★す～ず info@berceuse.in
11月26日(金) 9:30～	クリスマスフレーム 講習会	1,700円	マミフラワーデザインスクール 登録講師 鈴木 080-3941-0869
11月28日(日) 10:00～12:00	男女共同参画講座 「男の介護-ひとりで抱え込まないために-」	無料	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
11月28日(日) 13:30～19:00	Libra ミュージックフェスティバル	入場無料	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
12月2日(木) 14:00～	シネマ・ド・りぶら上映会 『私の頭の中の消しゴム』りぶらホール 13:15から整理券配布	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月3日(金) 14:00～16:45	りぶら市民セミナー「しゃべり場 No.8」	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月4日(土) 13:30～17:30	Libra あかりワークショップ みんなでつくろう!プレゼントマン	無料	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
12月5日(日) 14:00～16:00	LICCの講座 サンバのリズムにのって～ブラジル～	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
12月6日(月) ① 9:30 ② 11:00	おやこリトミック	500円	育遊空感べる★す～ず info@berceuse.in
12月11日(日) 11:00～13:00	LICCの講座 日本料理	500円	りぶら国際交流センター 23-3148
12月18日(土) 13:30～16:00	岡崎図書館未来企画フォーラム 「ネット時代の情報拠点としての図書館 ～librahack 事件から考える～」	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月18日(土) 16:00～	あきやまただし 絵本ライブ	1,000円	岡崎市図書館交流プラザりぶら 23-3111
12月19日(日) 10:00～12:10	りぶらを活用「冬のコンサート」	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114
12月19日(日) 10:00～12:15	子どものクッキング チキンを使ったお正月料理	1,200円	NPO 法人食育推進ネットワーク 岡崎支部 58-8069



特派員レポート vol.4

ボランティアマネージャー養成講座【9/30・木】

9月30日(木)の午後、会議室301で「ボランティアを育む会」主催で開催された。この講座を受講するまでは、ボランティア活動というと、漠然と「無償で社会奉仕をすること」と思っていたが、講座を終えて「ボランティア」の本当の意味がわかったような気がする。



ボランティアとは、「自ら進んで(自らの自由意志で自発的に)社会事業などに無償で参加する人」である。あくまでも「自らの意思」が重要で、決して強制するものでない。したがって、学校の授業として行われる地域貢献活動や、法令違反などの罰則として課せられる地域貢献活動など、「強制」が伴う自発的行為ではない活動は、ボランティアではないということだ。

また無償という括りに「奉仕」があるが、これは「奉仕する者」と「受ける者」との間に上下関係あり、奉仕する者には

自発的意思がないため、ボランティア活動ではない。ボランティア活動には「対等」・「自発意思」が大前提であることが理解できた。

次に、ボランティア管理者は、ボランティア活動をする人と、年齢・男女に関係なくお互いに意見を言うことができる対等な関係であり、個人の能力はそれぞれ異なるので、比較することなくその能力にあった活動を紹介することが重要である。

そうすることで、ボランティアをする人はやりがいを見つけ、そのことで喜んでくれる相手の顔を見て、自分が感動する。そして、その感動が、継続してボランティアを続ける自発性につながるのだ。そして、この感動を繰り返し味わえられるように手助けするのがボランティアマネージャーだということだった。

レポーター：駒田隆司



特派員レポート vol.5

りぶら交差点【10/9・土】

「りぶらの効果」を確かめ合おう



サブタイトル「りぶらサポータークラブ事業紹介」として、10月9日に開催された『りぶら交差点』に参加しました。

私自身サポーターの会員ですが、自分が属している数少ないプロジェクトの活動は承知していますが、それ以外の多くのプロジェクトの活動内容を知りませんので、良い機会だと思い参加しました。



出席の皆さんをみて驚きました。総勢15名でしたが、ほとんど運営委員の方と関係者であり、期待した一般の方は2名(1名は途中退場)でした。大勢いるサポータークラブ会員の出席がもっとあるかと思いましたが、残念でした。

サポータークラブの事業発表についての感想です。

☆「利用者行動観察」

りぶらとは何だろうかという基本的な考えのもとに2年間にわたり詳細調査をされ、グラフ化しての結果報告でした。図書館が休日の日でも3,000人の来場者がある事には驚きました。



☆「図書館未来企画」

3種類71問のアンケートが実施され、その分析結果の報告がありました。来館の目的は、大半が本を借りる・読む・は当然ながら、楽しむ・暇つぶしなどで、資料を探すためのレファレンスの利用者は少なく、宝のもちぐさの感があるとの事でした。

☆「チームHAPPYパパ」

りぶらは生涯学習の拠点として、社会的な問題に取り組む場であり、男性が男性らしく生きて行くためのプロジェクトとして企画されました。若いパパさんの参加が多いことに、時代を感じました。

この他「ボランティアを育む会」「市民セミナーの実践的研究」、「シネマ・ドリぶら」、「庭で遊ぼう」の各プロジェクトの活躍が、リーダーから発表されました。りぶらサポータークラブの事業は盛りだくさんあり、内容も充実しています。人集めは大変ですが、いろんな機会に呼びかけ、会員になって活動してほしいと思いました。

レポーター：長坂 進



特派員レポート vol.6
市民セミナー「しゃべり場」【10/1・金】

りぶら市民セミナー『しゃべり場』も今回で第7回を迎えました。「しゃべり場」というのに、テーマが必要か?と、毎回悩むところではあります。「話をしやすくするためには、きっかけが必要」ということで、今回のテーマは、『楽しい日々の過ごし方』になりました。

どちらかといえば、いつもシニア世代の男性の参加者が多いのに、テーマのせいか、今回は男性6名に対し、女性9名、しかも初参加の女性が4名もみえ、うれしい限りです。まずは自己紹介をし、初めての方には日々の生活ぶりなども話していただきました。

その自己紹介から話は弾んでいき、うまく子離れできたこと、子離れに失敗したことなど、そのまま「子離れのあり方」について、いろいろな話をきくことができました。次に、「子どもはある程度過ぎると、自分たちより成長していく」、「子離れをうまくするには、その子どもの人格を認め、尊重して突き放すことでは」という言葉には、来年成人式を迎える娘を持つ私にとって、考えさせられることでありました。

また、子どもに恵まれなかった方もいらして、子離れ以前に、「夫婦として仲

良くしていくためには、相手の気持ちになって考えている。おかげで夫婦げんかは一度もない」という話には、日々の自分を反省し、頭の上がない思いでした。

休憩をはさんで、いよいよ『楽しい日々の過ごし方』についてです。“楽しい日々の過ごし方＝夫婦が仲良く暮らしていく方法”の伝授です。夫婦は、もともとは他人なのだから、うまくいかないのは当たり前。努力と忍耐力が必要です。

その上で必要なのが、ふだんなかなか口に出せない「ありがとう」「すみません」の一言。感謝しているというだけでは相手に伝わりません。一方、男性はプライドが高いので、プライドを傷つけないようにしなければなりません。反面、おだてれば天(?)まで昇ってしまう。感謝の気持ちを、素直に言葉にしてみましょう。

主夫をしているという方もみえました。ふたりで暮らしている意義を考え、気遣いと思いやりを持ち、つかず離れず暮らしていくことが大切でしょう。

言葉にすることは簡単ですが、実践するのは難しいですね。でも、人生は何が起きるかかわからないので、今日を楽しく生きていくことが大切だと思いました。

レポーター：ナルちゃん

「りぶら de つながりんぐ」を実感した「りぶらまつり実行委員会」↓



私の一冊 vol.9

『「損する生き方」のススメ』

ひろさちや / 石井裕之：著 フォレスト出版

僕、こういう生き方指南書、大好きなんです。このご時世、苦しいです。そりゃあ、お金はないよりあった方が良く、いわゆる「セレブ」な生活にも憧れます。でも、それって違うんじゃないの?という自分があるのも事実。世の中のものさしに合わせてヘトヘトになって、「自分で損な生き方してるなあ」と思っていたそんな時、この本に出会いました。

本書の意図は「損して得とれ」という意味ではなく、「損して損しろ」くらいの気持ちを持つ、というものなのです。

つまり今の世の中、みなさん人より損してなるものか、と血眼になっているのではないのでしょうか?

そういう人たちは、家庭でも学校でも、結局のところ子どもたちにも「人より損しない方法」ばかり教えているのではないのでしょうか?

人々が譲り合い尊重しあうために、自分自身にちょっとの損を許せるようになる、そんな「損する智慧」を磨くためにこの本をおススメします。



鍛冶 清
(かじ きよし)
りぶらまつり実行委員長(34歳)。鍛冶商店(縫製業)代表。日名西町在住。
たばこ税増税に伴い、禁煙に奮闘中です。
生花教室に通うようになって、Libraの楽しさに目覚めました。図書館では主に雑誌を読んでいます。
りぶらまつり実行委員長として、りぶらまつりの成功に向けて頑張っています!見かけたら声をかけてください。

